

TO 報道関係者各位

FROM 奥能登国際芸術祭実行委員会

DATE 2017.2.20



Photo: Naoki Ishikawa

奥能登国際芸術祭実行委員会は、2017年9月3日(日)から10月22日(日)までの50日間、第一回となる「奥能登国際芸術祭2017」を開催いたします。この度、第三弾となる参加アーティストを発表いたしました。また、「奥能登国際芸術祭2017」の作品を鑑賞できるパスポートについての情報や、昨年に開催いたしました奥能登珠洲の魅力を掘り起こし、再発見する参加型企画「わるないわ〜奥能登珠洲 写真と言葉の投稿コンテスト」の受賞作品選出、そして「奥能登国際芸術祭2017」のサポーター募集についての情報も発表いたしましたので、ご確認のほどよろしくお願いいたします。

<芸術祭概要>

奥能登国際芸術祭2017

「最涯の芸術祭、最先端の美術」

会期:2017年9月3日(日)～10月22日(日) 50日間

会場:石川県珠洲市全域

参加アーティスト:

10の国と地域から31組(2017年2月19日時点)

主催:奥能登国際芸術祭実行委員会

実行委員長:泉谷満寿裕(珠洲市長)

総合ディレクター:北川フラム(アートディレクター)

クリエイティブディレクター:浅葉克己(アートディレクター)

コミュニケーションディレクター:福田敏也(広告・WEBプランナー)

公式写真:石川直樹(写真家)

奥能登国際芸術祭
珠洲



SUZU 2017
OKU-NOTO TRIENNALE

公式ウェブサイト:<http://oku-noto.jp>

奥能登国際芸術祭2017 参加決定アーティスト第三弾発表



能登半島の先端に位置する石川県珠洲市。古くから海と陸の交流が盛んに行われ、特異な文化が育まれた珠洲は、地理的に孤立していることから、日本文化の源流ともいえるべき昔ながらの暮らしや風習がいまでも残る町。“忘れられた日本”がそこにあります。連日のように「キリコ祭り」が行われ、奥能登が一年で最も活気づく秋に開催される「奥能登国際芸術祭2017」は、伝統文化と最先端の美術が響き合うアートの祭典。国内外から参加するアーティストと奥能登珠洲に眠るポテンシャルを掘り起こし、日本の“最涯”から“最先端”の文化を創造する試みです。この度、新たに14組の参加アーティストが決定しました。



奥能登国際芸術祭2017 参加予定アーティスト一覧 (2017年2月19日時点)

浅葉克己(日本) / アデル・アブデスメッド(アルジェリア/フランス) / アローラ&カルサディージャ(プエルトリコ) / 石川直樹(日本) / EAT&ART TARO(日本) / 岩崎貴宏(日本) / Ongoing Collective(日本) / 角文平(日本) / 金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム[スズブロ](日本) / 河口龍夫(日本) / キジマ真紀(日本) / GYOKO YOSHIDA + KINOURA MEETING(日本) / 鴻池朋子(日本) / 小山真徳(日本) / アレクサンドル・コンスタンチーノフ(ロシア) / さわひらぎ(日本) / 塩田千春(日本) / リュウ・ジャンファ(中国) / 田中信行(日本) / 中瀬康志(日本) / エコ・ヌグロホ(インドネシア) / Noto Aburi Project(日本) / バスラマ・コレクティブ(スペイン) / ひびのこづえ(日本) / 深澤孝史(日本) / ギム・ホンソック(韓国) / 眞壁陸二(日本) / 吉野央子(日本) / ラックス・メディア・コレクティブ(インド) / カ五山(日本) / トビアス・レーベルガー(ドイツ) ほか ※表記は50音順

※下線が第三弾の発表アーティストとなります。

各アーティストのこれまでの作品紹介も含めたプロフィールは、以下のURLからご覧いただけます。

<http://oku-noto.jp/artists/>

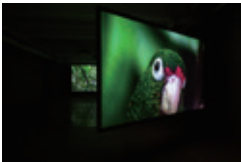
奥能登国際芸術祭2017 参加予定アーティスト（第三弾発表）プロフィール



アローラ & カルサディージャ (プエルトリコ)

1995年より共同制作開始。現在、サンファン（プエルトリコ）拠点。一つの対象に対する徹底的なリサーチと鋭い解釈、創造的なアプローチによって、国際的に注目されている。環境や人類学、国家間の軍事・政治的な緊張や社会システムに関心をもち、映像・音・彫刻・パフォーマンスなどで作品化する。

主な国際展に第54回ヴェネツィア・ビエンナーレ（2011）アメリカ合衆国館代表。第29回サンパウロ・ビエンナーレ（2010/ブラジル）、ドクメンタ13（カッセル、ドイツ、2012）、光州・ビエンナーレ（2004、2008、2014）、あいちトリエンナーレ（2016）。個展にニューヨーク近代美術館（2010）、フィラデルフィア美術館（2014-15）など。



アレクサンドル・コンスタンチーノフ (ロシア)

1953年モスクワ生まれ。

作家、建築家、数学博士。第二アヴァンギャルド世代、ソ連アンダーグラウンド世代として、1990年以降、オーストリア、ドイツ、アメリカなどで50以上の個展を開催。モスクワ、ニューヨーク在住。古い家屋（や作品のために新しく建てた家屋）を様々な素材で「包みこみ」、その場所に新しい意味を与え、再生することをテーマとする連作がある。日本の町や村、建物に強い関心を持つ。



Ongoing Collective（日本）

東京の吉祥寺にある芸術複合施設 Art Center Ongoing ディレクター 小川 希の呼びかけによって集まったアーティスト34名、ミュージシャン1名、キュレーター6名、コーディネーター4名からなる全45名のアーティスト集団。2016年結成。

活動歴

2016年11月

ハイブリッド映像論（群馬、シネマ前橋）

2016年7月

Ongoing Collective 展（東京、Art Center Ongoing）



角 文平（日本）

1978年福井生まれ。2002年武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科金工専攻卒業。東京在住。日常的に見慣れたものを組み合わせることで本来のものが持つ機能や意味をずらし、新たな意味を見る側に連想させるような彫刻を制作。近年は空き家や学校の教室を使ったプロジェクトを経て、作品周辺の空間を作品の一部として取り込むようなインスタレーションも展開。

【主なプロジェクト・展覧会】

Tokyo Midtown Award 2012

[2012年、Tokyo Midtown、東京]

瀬戸内国際芸術祭2013

[2013年、男木島、香川]

いちばらアート×ミックス

[2014年、旧里見小学校、千葉]

六甲ミーツ・アート芸術散歩2014

[2014年、六甲オルゴールミュージアム、兵庫]

森からはじまる物語

[2015年、金津創作の森、福井]

鉄道美術館

[2016年、川崎市岡本太郎美術館、神奈川]



奥能登国際芸術祭2017 参加予定アーティスト（第三弾発表）プロフィール



金沢美術工芸大学アートプロジェクト チーム「スズプロ」(日本)

奥能登国際芸術祭を機会に結成された、金沢美術工芸大学の分野を越えた教員と学生のチームです。日本海と共に発展してきた珠洲の歴史的・社会的背景をふまえ、「静かな海流をめぐって」をテーマとして、飯田地区の古民家での作品展示を中心に、上黒丸地区とも連携した取り組みも行います。平成28年4月から活動を開始し、フィールドワーク等を通じて奥能登文化を中心に環日本海を見渡した調査研究を行っています。平成28年7月には、これまでの成果をカルチュラルタイフーン（東京芸術大学）などで発表。その他、ヨバレや燈籠山祭り等に積極的に参加しながら、地域交流を深めています。



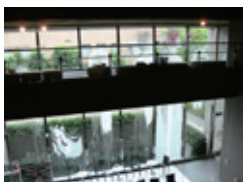
キジマ真紀 (日本)

1976年東京都生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科油画専攻修了。「現実と空想」をテーマに、布やプラスチック製品など日用品を繊細な手作業によって鮮やかな植物やドレスに変貌させる作品を制作している。2009年、2012年、2015年に参加した「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」では、地域住民とワークショップを重ね、住民参加型の作品を制作している。2013年には横浜赤レンガ倉庫前に設置されたスケートリング「Art Rink」のアートプロデュース、2014年からは市原湖畔美術館にてワークショップを実施するなど、幅広い活動を展開している。



GYOKO YOSHIDA + KINOURA MEETING (日本)

【よしだ ぎょうこ (吉田 暁子) 美術家】
1970年名古屋生まれ。多摩美術大学大学院日本画卒業後、東アジア主に日本の原初的な美術構造を探り東西の文脈の違いから表現する。形式は多岐にわたるが、全て、日本の絵画の領域として発表。2001年-2002年 ACC 授与、同じく2004年-2005年 文化庁新進芸術家海外派遣作家、ともにニューヨーク滞任制作。「今ここにある風景展」(静岡県立美術館, 2002年)「絵画の位相」(個展, ギャラリークラムキ, 大阪, 2001年)が毎日新聞「美術と批評」年間美術批評にて一位 (2001, 峯村俊明/2002, 本江邦夫)、「第11回インドトリエンナーレ」日本代表作家 (2005年) 他、国内外にて個展グループ展。書籍に「GYOKO YOSHIDA 1993-2014 work & texts」1~3 (東京画廊, 2014)、「ピンクの血」(六耀社, 2001) 他。北海道から九州まで各地で若手美術家育成プロジェクトを長期的にディレクション。(2005~至現在)



【KINOURA MEETING (木ノ浦湾「海上のさいはて茶屋」プロジェクトチーム)】美術家、工芸家、経済学者、哲学者、ファッションデザイナー、炭焼き師、茶人など様々なメンバーが、木の浦湾の海上に「茶室」という形で知識や技術を集結させる。珠洲の喫茶店が元となった映画「さいはてにて」撮影セットが残る一帯で、美術と地域経済活性化を、「本気で楽しむ」プロジェクト。
澤信俊／大野長一郎／保井亜弓＋神谷佳男／竹俣勇亮／川上明孝／星野太／平塚聖子／村山祐子／浜田周／池田 晃将／カレラ流海／現代美術 mixt med. セミ／よしだぎょうこ他



小山真徳 (日本)

寒々とした荒野の風景、畑に存在するプリミティブな案山子、風吹きすさぶ海辺に取り残された漂着物…

時代の流れに押し流され消え行く存在たちが、ゆるやかな日常生活のなか、際立って目に飛び込んでくることがある。物質的に満ち足りた現代の幸福と激しい陰影のコントラストを持って存在するそのような「異物」が放つ、哀しみと怒りの魂に呼応することが、作品制作に繋がっている。西日を受け、浮遊感・孤独感・喪失感を引きずって歩く背中を見せながら自分自身が「異物」になり、人生の背面を観る者に追わせるような表現を大切にしている。



1981年、愛知県生まれ。2011年、東京藝術大学美術研究科油画専攻技法材料研究室修士課程修了。東京在住。
2013年 瀬戸内国際芸術祭(香川県小豆島)
2014年 第17回岡本太郎現代芸術賞展(川崎市岡本太郎美術館)
2014年 表現のチカラ 東京藝大セレクション(高松城跡 披雲閣)
2015年 中之条ビエンナーレ(群馬県中之条)
2016年 Who By Art vol.5 (西武渋谷 美術館)

奥能登国際芸術祭2017 参加予定アーティスト（第三弾発表）プロフィール



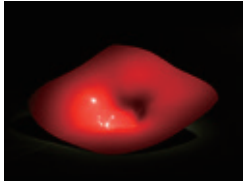
田中 信行（日本）

1959年 東京生まれ

東京藝術大学大学院美術研究科修了

2003年 第14回タカシマヤ文化基金タカシマヤ美術賞受賞

2012年 第18回MOA岡田茂吉賞大賞受賞



アジア固有の素材である漆を一貫して表現材料として用いている。漆の物質感から喚起される皮膚性、皮膚感、触覚性と自己の身体性を通して、生命の根源や生成に関わる原初的な記憶をテーマとして制作している。芸術祭開催の地である奥能登は漆の産地が身近にあり、漆が塗られた縄文時代の出土品も数多く発見されるなど、長い時間にわたって漆文化が引き継がれている地域である。このような地において、漆を用いて人間の無意識の領域にふみこむような原初性を喚起する場を制作することを試みる。

主な展覧会]

2005年 「アルス・ノーヴァー現代美術と工芸のはざまに」 東京現代美術館

2007年「六本木クロッシング2007 未来への脈動」森美術館／東京

2009年「漆が喚起するもの」 入善町 下山芸術の森 発電所美術館／富山

2013年 「黒田辰秋・田中 信行一漆というカー」 豊田市美術館／愛知

2015年 「シンプルなかたち」 森美術館／東京
東京国立近代美術館、金沢21世紀美術館、豊田市美術館、メトロポリタン美術館、フィラデルフィア美術館、ピクトリア&アルバート美術館他、国内外の多数の美術館に作品がコレクションされている。



Noto Aburi Project（日本）

石川県能登半島の先端にある珠洲市が誇る珪藻土コンロと手作りの炭を、そのコンロと炭が生み出す「炙り」の楽しさを、奥能登の良さを伝えるため、丸の内朝大学2013年夏学期地域プロデューサークラス能登編から生まれたプロジェクトです。炭火を中心に人が集い、ゆったりと食材に向き合い美味しく食べる。炙りが生み出す時間・空間を体験する場を伝えています。

活動実績は、日本各所で炙り場（2014）、珠洲炙りツアーを珠洲の方と協力して開催（2014）、炙りキットの商品化（2014）、炙りキットが珠洲市ふるさと納税の返礼品に採用（2016）、その他ウェブサイトによって炙りの情報発信をしています。



バスラマ コレクティブ（スペイン）

2001年にマドリッドで設立されたアーティスト集団。その土地の文化や環境をリサーチし、使い古された物や捨てられた物などを利用して、新たな物を創造する。制作過程では、コミュニティとの関係を大切にし、大量生産され消費されていく現代社会で置き去りにされていった、人との繋がりや何かを創造する力を導きだすことを心掛けている。マドリッドを拠点にブラジル・サンパウロや南アフリカ・ケープタウンなど世界で100以上のプロジェクトを手がけている。



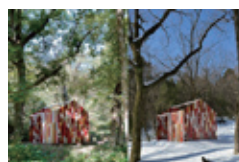
眞壁 陸二（日本）

1971年石川県生まれ。多摩美術大学卒業。

「生と死、無と無限、混沌と秩序」この6つの言葉をテーマにしている。

言葉では説明しきれない、自然や生命の神秘と多様性に富む世界の文化や価値観の融合を感覚的に絵画的表現を用いて制作する。

現在は金沢市を拠点に活動している。



【主な展覧会歴】

2016年 BASE GALLERY、「森/叙景」（東京）

2015年 金津創作の森、「森からはじまる物語」（福井）

2014年 STAR GALLERY/星空間「霧-京都」（北京、中国）

2013年 ギャラリー点、「forgotten myth」（金沢）

2012年 TRIUMPH GALLERY、「SUSTAINABILITY」（モスクワ、ロシア）

2012,13年 イチハナリ アートプロジェクト（沖縄）

2010,13,16年 瀬戸内国際芸術祭（香川）

奥能登国際芸術祭2017 参加予定アーティスト（第三弾発表）プロフィール



吉野央子（日本）

1964年鹿児島生まれ。京都精華大学卒業、彫刻家。現在京都精華大学教授。木彫を中心としたインスタレーションを数多く発表。2009年、大地の芸術祭を契機に近年の作品は、自己のアイデンティティとサイトスペシフィック（場所性）を重視した作品を展開している。土地由来の農業、漁業などの営みが自然環境、風土に深く根ざし、欠くことのできない関係性を示していると同時に、再生可能な自然循環の中で、人もまた自然の一部として生かされていることを提唱、家畜や魚などの動物をモチーフとした寓話的な作品を発表している。

【主なプロジェクト・展覧会】

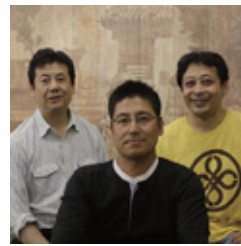
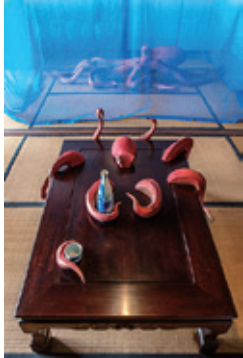
2015 越後妻有アートトリエンナーレ2015「大地の芸術祭」／十日町市 新潟

2015 OAP彫刻の小径 アートコート・ギャラリー／大阪

2013 瀬戸内国際芸術祭2013 高見島 香川

2009 越後妻有アートトリエンナーレ2009「大地の芸術祭」／十日町市 新潟

他、グループ展、個展多数



力五山（日本）

2009年

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ
《還るところ》 新潟県高倉集落

2012年

大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ
《祭・還るところ》 新潟県 高倉集落 十二社神社

2013年

瀬戸内国際芸術祭2013《つなぐ》

香川県本島 惣光寺

2015年

つくる展《ちがさきチャリンコアートプロジェクト》

神奈川県茅ヶ崎市美術館

大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ

《つなぐ・還るところ》新潟県 高倉集落

2017年

現代美術展 小田原ビエンナーレ2017



作品鑑賞パスポートの発売について

「奥能登国際芸術祭2017」の作品鑑賞パスポートは、2017年5月下旬より前売券を発売いたします（取り扱い場所：各種プレイガイドほか）。パスポートの提示により、飲食店、宿泊施設、イベント割引など各種優待があります。

	当日券	前売券
一般	2500	2000
高校生	1000	800
小中学生	500	300

『奥能登珠洲魅力100選』を発表！

昨年2月より開催された企画「わるないわ～奥能登珠洲 写真と言葉の投稿コンテスト」の投稿作品1892作品の中から、この度『奥能登珠洲魅力100選』が選出されました。

「わるないわ～」は奥能登の言葉で、「よい」をちょっと遠慮気味に伝える素敵な地域言葉。奥能登珠洲に住んできた人や旅する人、その良さにふれた人などさまざまな人々の心の奥にしまわれている魅力を掘りおこし、再発見することが狙いとして行われた同企画には、奥能登珠洲の文化や暮らしの風景など、様々な一面を紹介する写真が多数投稿されました。以下、『奥能登珠洲魅力100選』の受賞作品を一部ご紹介します。

審査員：

浅葉克己(アートディレクター、奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター)

石川直樹(写真家、奥能登国際芸術祭公式写真)

北川フラム(アートディレクター、奥能登国際芸術祭総合ディレクター)

ひびのこづえ(コスチューム・アーティスト、奥能登国際芸術祭参加アーティスト)

中村浩二(金沢大学名誉教授)

福田敏也(広告・WEBプランナー、奥能登国際芸術祭コミュニケーションディレクター)

泉谷満寿裕(珠洲市長、奥能登国際芸術祭実行委員長)

特別賞



・浅葉克己賞

投稿者：仲平さん60代／大谷地区

投稿コメント：

男衆がアカバを羽織り、町内まわりの前に集合写真。馬縹の秋祭り



・石川直樹賞

投稿者：kagiさん50代／三崎地区

投稿コメント：

三崎町伏見の秋祭りの入り宮風景。
火渡りに使う藁は煙を少なくするために
〇〇だそうです。



・北川フラム賞

投稿者:にまにゃんさん8歳／直地区

投稿コメント:

通学路を歩き、咲いている春の野花をとりました。子供の目線は低いからか大人は気が付かない小さなものまで発見しますね。(母代筆)



・里山里海賞(中村浩二／金沢大学名誉教授)

投稿者:3号さん30代／日置地区

投稿コメント:

横山空撮



・ひびのこづえ賞

投稿者:ファルコンさん20代／大谷地区

投稿コメント:

水面に映る空



・福田敏也賞

投稿者:tom29さん20代／東京都足立区

投稿コメント:

あったかいんだから～



・実行委員長賞(珠洲市長)

投稿者:ぬっしーさん10代/直地区

投稿コメント:

私が住んでいる珠洲の海は透明度が高く
きれいな海です。珠洲の特産品の塩は
珠洲の海水を使い揚げ浜塩田で作られて
います。地元の人たちは毎年海岸清掃を
行い、めぐみをもたらしてくれる海に
感謝しています。

『奥能登珠洲魅力100選』の展示を2月19日(日)より
「珠洲市多目的ホール ラポルトすず」(石川県珠洲市)で、
7月4日(火)より「渋谷ヒカリエ」(東京都渋谷区)にて開催いたします。

「奥能登珠洲魅力100選展」

期間:2月19日(日)～27日(月) 9:00-18:00 ※21日(火)は休館

展示場所:珠洲市多目的ホール ラポルトすず 市民ギャラリー

「奥能登国際芸術祭直前PRイベント」

会場:渋谷ヒカリエ 8階 8/CUBE1,2,3 (<http://www.hikarie8.com/home.shtml>)

会期:7月4日(火)～17日(月・祝)

※奥能登珠洲魅力100選の展示のほか、
珠洲特産リデザイン商品の紹介や作品鑑賞パスポート、
ガイドブックの発売も予定しています。

サポーター募集について

奥能登国際芸術祭2017を支えてくださるボランティアスタッフを募集いたします。

芸術祭に関わりたい、アートが好き、地域活動に興味がある、
いろいろな人と交流したいなど、様々な思いを持った人が集まります。

詳細は <http://oku-noto.jp/support/> をご参照ください。

ご取材・広報についてのお問い合わせ

奥能登国際芸術祭実行委員会事務局 広報窓口

〒927-1214 石川県珠洲市飯田町13字120番地1

TEL:0768-82-7720 FAX:0768-82-7727

E-mail: press@oku-noto.jp